

## II 授業研究会

### 群馬県高等学校教育研究会音楽部会「令和3年度第1回授業研究会」

日 時	令和3年 7月14日 (水)
会 場	群馬県立安中総合学園高等学校 (オンライン)
教科・科目	芸術科・音楽 I
題 材 名	「さくらさくら」を三味線で奏でて味わおう ～引き継がれる日本の伝統音楽～
指 導 学 級	総合学科 1年3組
授 業 者	富岡 恵美 教諭



### 1 開会行事

#### (1) 挨拶

① 小松 祐一 先生 (群馬県高等学校教育研究会音楽部会長)

本日の授業研究会は、来年度から全面実施となる新学習指導要領に基づいた授業の改善について、参加者の先生方から貴重な意見をいただける機会である。オンラインでの開催とはなるが、活発な意見交換及び情報共有の場としてもらいたい。

② 森 英也 先生 (群馬県立安中総合学園高等学校校長)

音楽部会員の先生方が、こうした社会情勢の中であっても自らの学びを止めず、オンラインの授業研究会を実施されることに敬意を表したい。今後の研究会等の先駆けとなるのではないかと考える。本校では2学年で、「主として専門学科において開設される各教科・科目」の音楽に関する授業を履修することができるようになっており、総合学科として芸術科 (音楽) の授業にも重点を置いた指導を行っている。本日は日本の伝統音楽と和楽器を題材として扱う1学年の「音楽 I」の授業研究会であるが、研究授業後の授業研究が充実し、先生方の授業力の向上につながるものにしてほしい。

③ 島田 聡 先生 (群馬県教育委員会事務局高校教育課教科指導係 指導主事)

本日の研究授業は、「音楽 I」の器楽と鑑賞を関連付けた題材で、新学習指導要領の趣旨を踏まえた指導の提案がなされると聞いている。「指導と評価の一体化」に向けた授業づくりや実際の指導の様子を参考とし、各校において新学習指導要領の実施を見据えた準備を進めてもらいたい。

#### (2) 授業説明 (富岡教諭)

日本の伝統音楽の中で、箏の授業は多く行われているが、三味線を取り扱った授業はあまり多くはない。教育効果の高いと考えられる三味線の魅力を先生方にも知っていただきたいという思いもあり、本題材での授業を計画した。本校では三味線奏者に演奏を行っていただく機会があり、生徒の三味線に対する興味・関心が高まっている中で、これまで三味線の音色や奏法との関わりについて器楽を中心とした学習に取り組んできた。

昨年度までは細棹三味線を使用していたが、三味線奏者からの助言により今年度は中棹三味線で授業を行っている。Chromebook にマイクを付けて生徒の演奏を録音するなど ICT も活用している。ほとんどの生徒が三味線を演奏することは初めてであるため、サワリの音色の特徴を感じ取りながら基本的な奏法を習得できるように指導している。

本時の授業では、前時までに録音した生徒の演奏による「さくらさくら」の聴取を行う。2名の生徒の演奏を取り上げ、どちらがお気に入りの演奏であるかを判断し、その理由をワークシートにまとめる。また、授業の後半では、「蝶々夫人」を鑑賞する学習を通して、「さくらさくら」の楽曲の魅力に気付き、伝統音楽のよさや美しさを味わう、という本時の目標につなげていきたい。

### (3) 研修係より

新学習指導要領への円滑な移行に向けて、移行期間にあたる令和元年度からの3年間は、「授業研究会」及び「夏季研究会」、「部会講演会」を統一した研究テーマの下で開催してきた。今年はそのまとめの年度として、来年度からの新学習指導要領による取組を推進できるようにしたい。研究授業後の授業研究については、下記の視点から協議を行ってほしい。

#### 【研究テーマ】

「現行学習指導要領を基とする取組の充実」及び「新学習指導要領の理解と実践」

#### 【授業研究の視点】

1. 本時における学習内容は、「指導事項」とどのように関連するか
2. 本時の学習目標を達成することで、どんな「育成を目指す資質・能力」が身に付くか
3. 本時の展開で、「主体的・対話的で深い学び」となっていた場面はどこか

## 2 研究授業 学習指導案参照



## 3 授業研究

### (1) 授業者より趣旨説明等（富岡教諭）

生徒に何を伝えたいか、鑑賞によりどんなことを味わってもらいたいかなどをさらに整理しながら授業を構成していくことの必要性を感じた。しかし、積極的に楽曲の特徴を理解しようとし、協働的に学習に取り組む生徒の姿が見られたことはよかった。お気づきの点や疑問点などを忌憚なく御提示いただき、今後の授業改善のための課題とさせていただきたい。

### (2) 研究協議①（班別協議） Jamboard による班別協議資料参照

### (3) 研究協議②（全体協議）

1班：鈴木（桐生清桜）、須田（吉井）、木部（太田フレックス）、柳田（館林高特）、沼女（戸松）

- 本時における学習内容は、「指導事項」とどのように関連するか
- ・「さくらさくら」を様々な角度から捉える学習により、楽曲や演奏に対する評価とその根拠について考えることにつながっていた。

- ・「三味線の音楽」と「蝶々夫人の音楽」を比べている場面が指導事項と関連していると感じた。
- ・本題材で扱う音楽を形づくっている要素が明確であり、考えのよりどころが分かりやすかった。
- 本時の学習目標を達成することで、どんな「育成を目指す資質・能力」が身に付くか
  - ・言葉で表現する表現力が身に付くと思う。
- 本時の展開で、「主体的・対話的で深い学び」となっていた場面はどこか
  - ・生徒とのコミュニケーションをたくさん取りながら進めていた。
  - ・隣同士でワークシートを確認し合い、考えを深めていた。
  - ・「蝶々夫人」の中で「さくらさくら」が聴こえたところを教え合うことで、学びが深まっていた。
  - ・引き継いでいきたい「さくらさくら」の魅力について、「日本の風土における『さくらさくら』の魅力」という指導者のねらいが生徒に伝わっていた。

**2班：井上（藤岡中央）、松平（尾瀬）、近野（伊勢崎清明）、天川（高女）、勝山（二葉高特）**

- 本時における学習内容は、「指導事項」とどのように関連するか
  - ・「器楽表現を創意工夫すること」を意識させる導入であり、生徒はそれぞれ異なる「さくらさくら」を思い思いに弾いていた。
  - ・お気に入りの「さくらさくら」について、音楽を形づくっている要素を根拠として自分の評価を考えることができていた。
  - ・「さくらさくら」が演奏される前の5音階で奏される部分で、日本らしさを感じられていた生徒がいた、そこも深められるとよかったのではないかと感じた。
  - ・音楽を形づくっている要素の「リズム」と「速度」を混同してしまっていた生徒がいた。
- 本時の学習目標を達成することで、どんな「育成を目指す資質・能力」が身に付くか
  - ・「さくらさくら」という伝統音楽をプッチーニの音楽から見つけ出すことで、日本から外国に目を向けることができ、日本の伝統音楽への敬意をもったりそれぞれのよさを認め合ったりすることなどにつながっていた。
  - ・100円玉を見せたことで身近なものだという意識や興味をもたせることにつながっていた。
  - ・5音階が演奏される部分で挙手した生徒がいたので、それを知識として生徒に伝えていくとよかった。
  - ・「さくらさくら」や三味線から、作曲者そして世界からみた日本の音楽と、スケールが大きくなっていった。
- 本時の展開で、「主体的・対話的で深い学び」となっていた場面はどこか
  - ・安心して意見を伝え合える人間関係が築かれており、生徒同士のコミュニケーションが多くあった。
  - ・音楽を形づくっている要素の「リズム」と「速度」を混同している生徒がいたので、音楽を味わう中で正しく根拠を書ける力を付けられるとよい。
  - ・評価規準について、ルーブリックなどを用いて生徒の態度や意見の内容の規準などを示していけるとよいのではないか。
  - ・日頃からの評価（特に関心・意欲・態度）をどんな基準でつけるのが難しいと感じた。

**3班：大和（西邑楽）、五十嵐（長野原）、角田（安中総合）、木村（榛名）、境野（二葉高特）**

- 本時における学習内容は、「指導事項」とどのように関連するか
  - ・お気に入りの演奏についての根拠を記入するワークシートが分かりやすく、書きやすかった。
  - ・「どっちがいいということではなく」というフォロー的な言葉かけがよかった。
  - ・授業の流れが分かりやすく、ワークシートも簡潔で取り組みやすいものであった。

- ・生徒の演奏を聴き比べてお気に入りの演奏を見つけるという過程がよかった。
- ・意見を共有する場面が多くてよかった。
- 本時の学習目標を達成することで、どんな「育成を目指す資質・能力」が身に付くか
  - ・よさや美しさを味わい音楽の意味や価値を創造する力。
  - ・音や音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものとして感じ取る感性。
  - ・我が国及び諸外国の音楽文化を尊重する態度。
  - ・美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操。
  - ・思考力・判断力・表現力、及び学びに向かう力・人間性等の項目に多くあてはまる。
- 本時の展開で、「主体的・対話的で深い学び」となっていた場面はどこか
  - ・自分の思い描く「さくらさくら」をイメージして演奏する学習を行った後で、2つの演奏の聴き比べをしたことで、他の人はどのような「さくらさくら」を演奏するのか、という視点でよく聴けていた。
  - ・1人1人が考える時間が多かったが、例えば「洋風的」という言葉が出た際に、「どんな部分でそう思ったのか」とより深められるとよかった。
  - ・「ワークシートに記入しよう（学習に取り組もう）」という意欲的な姿勢が見られた。
  - ・2人の演奏を聴き比べて自分が思い描いている「さくらさくら」と照らし合わせるという学習が、生徒が取り組んでいた内容そのものであったため、集中して取り組んでいた。

4班：川上（伊勢崎）、斎藤（渋女）、須田（渡良瀬特支）、藤川（万場）、江原（高経大附）

- 本時における学習内容は、「指導事項」とどのように関連するか
  - ・生徒の思考の流れに沿いながら授業がスムーズに進んでいた。
  - ・学習指導要領の指導事項の鑑賞の（イ）によく関連していた。
- 本時の学習目標を達成することで、どんな「育成を目指す資質・能力」が身に付くか
  - ・「さくらさくら」の演奏の中で、自分の価値観を見直す言葉かけと授業展開により、自分の中で新しい考えを発見する能力が身に付いていた。
  - ・「日本人として」というアイデンティティを考えていた。
  - ・音楽を形づくっている要素を3つに絞っていたが、「リズム」について生徒にどのように書いてほしかったのか気になった。
  - ・「速度」について、2つの演奏の違いが顕著に分かったので考えのよりどころがつかみやすかった。
- 本時の展開で、「主体的・対話的で深い学び」となっていた場面はどこか
  - ・考える時間が多く設定されており、ワークシートも生徒の思考の流れに沿った書きやすいもので、考えをまとめながら進めていくことができていた。
  - ・蝶々夫人のあらすじについて、ポイントを絞ってもう少し分かりやすく伝えるともっと考えやすかった。
  - ・作曲者のプッチーニの目線に立って「さくらさくら」の魅力を考えてもよかったのではないかと感じた。

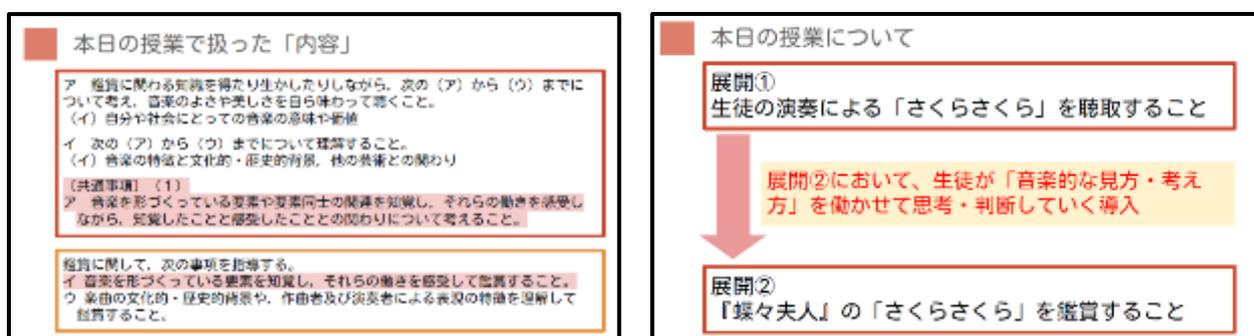
## 4 指導・助言等

### (1) 島田 聡 先生（群馬県教育委員会事務局高校教育課教科指導係 指導主事）

協議で出された様々な意見を参考に、皆さんが御自身の授業を振り返り、新学習指導要領と照らし合わせながら授業改善を推進するきっかけにさせていただきたい。本日の授業は、これまで音楽部会員の皆様が積み重ねてこられた研修の流れと具体的な方向性を踏まえ、新学習指導要領の「鑑賞」の指導事項である「我が

国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴」を取り扱う新たな提案であったと思う。また、題材全体を見通すと、『さくらさくら』を三味線で奏でて味わおう」という題材名の下、鑑賞と器楽との関連についても新学習指導要領における位置付けについて共有することができたと思う。

本日の授業の具体について、展開①：「生徒の演奏による『さくらさくら』を聴取すること」と、展開②：「『蝶々夫人』の『さくらさくら』の部分の鑑賞すること」に、どのような意味や関係があるのかを確認していきたい。展開①で「さくらさくら」を演奏することは、展開②において「音楽的な見方・考え方」を働かせて思考・判断していく導入としての意味を持っている。新学習指導要領では、自己のイメージや感情と関連付けて、生徒が「音楽的な見方・考え方」を授業や人生で自在に働かせられるよう、指導者が専門性を発揮していくことが期待されている。本日の授業で生徒たちは、自分自身の演奏と「さくらさくら」の様々な文化的・歴史的背景（古謡として、オペラの一部として、生徒自身の既知の知識として、など）と関連付けながら、引き（弾き）継いでいきたい「さくらさくら」の魅力を考えていた。生徒同士、生徒と指導者、そして生徒と楽曲とのコミュニケーションが多く図られた、とても魅力的な授業であった。



(2) 荻野 葉子 先生（群馬県高等学校教育研究会音楽部会副部長）

授業全体を通して、生徒一人一人が主体的に学習に取り組んでいた姿が印象的であり、日頃の指導の賜であると感じた。生徒の演奏を録音したものに、それぞれのよさが表れていた。また、ワークシートが分かりやすく、音楽の特徴をよく表す内容が生徒自身の言葉によって表現されていた。一方で、大切なことや授業の視点、生徒の意見などを板書等で視覚的に共有できるよう工夫することによって、生徒自身の言葉なども深まり、整理されていくと思われる。自分の言葉で音楽を表現することや、意見を共有して世界を広げ、また個人の表現に戻ること、それにより自分の考えや演奏表現を深めていくという授業展開における指導者の意図が生徒にも伝わっていた。

ICTの環境整備が進んでいく中、オンラインによる初めての開催であったが、先生方に御協力をいただき、研究協議も活発に行われ、非常に有意義な授業研究会となった。

※授業者より補足等（富岡教諭）

三味線を学習するにあたり、これまで5音階には触れていなかったが、それに気が付いていた生徒がいた。今回の授業の中で取り上げられなかったので、今後の授業の中で扱っていきたい。多くの生徒はゆったりとした速度で「さくらさくら」を演奏していた中、速いテンポで演奏していた生徒は、題材の導入の授業で津軽三味線を速くリズムよく弾いている演奏を聴いて影響を受けていた。そこから、「自分もそのように三味線を演奏したい」と思ってくれたことは嬉しい。その速い演奏をした生徒は、自分の演奏が取り上げられた際には、「速度の設定を間違えてしまった」という思いが強かったようだが、「よい」と思ってくれた生徒も数名いたことが分ると、「認められた」という気持ちをもてるようになっていたようである。

本時の授業では、音楽を形づくっている要素の中から「リズム」と「速度」について扱った。「速度」はし

っかりとワークシートにも記入できている様子であったが、「リズム」を捉えることが難しい生徒もいたようである。「リズム」については、使用する言葉の例として「歯切れのよいリズム」や「なめらかなリズム」などを伝えているが、今後「リズム」を表す言葉についてより具体的に伝えていく必要があると感じた。また、和洋折衷な感じを聴き取っていた生徒へのアプローチも工夫していきたい。「さくらさくら」の歌唱ではなく、オーケストラでの鑑賞としたのは、日本人ではない作曲家が、「さくらさくら」に魅力を感じて楽曲に取り入れたことに気が付いてほしかったという意図からである。

ワークシートの最後の3つの問いに関して、「プッチーニにとっての『楽曲』の魅力」は、『さくらさくら』に美を見出してオペラの中に使用した」こと、「引き継いでいきたい『さくらさくら』の魅力」は、「自然や風土と『さくらさくら』が密接に関わっている」こと、「弾き継いでいきたい『さくらさくら』の魅力」は、「サワリの音やばちが当たる音の魅力」を踏まえて味わうことにつながるとよかった。その他、板書計画も考えていたが、授業を行いながら生徒の様子を見て、板書する時間を多くの生徒の意見を確認する時間にあてた。また意見の共有については、効率的に記入して発表できるようにするために、端末を活用してJamboardを生徒全員が使えるようにしたいと感じている。

多くの先生方に参加していただき、ありがたく思う。



## 5 閉会行事

### (1) 挨拶

荻野 葉子 先生（群馬県高等学校教育研究会音楽部会副部会長）

本日の授業研究会は、お引き受けいただいた会場校の安中総合学園高等学校森英也校長先生をはじめ、指導・助言をいただいた指導主事島田聡先生、授業準備及び研究授業を行っていただいた富岡恵美先生、そして、参加者の先生方や運営にあたってくださった多くの先生方の御協力により開催させていただくことができました。皆様に感謝を申し上げます。

## 6 参加者（敬称略 順不同）

小松 祐一（吉井）	荻野 葉子（館林女子）	島田 聡（高校教育課）	黒岩 伸枝（高崎）
天川 優香（高崎女子）	木村友希乃（榛名）	須田 諭美（吉井）	荒木奈都子（吉井）
山元 唯佳（高崎商業）	鈴木香奈子（桐生清桜）	川上 寛子（伊勢崎）	近野 裕子（伊勢崎清明）
木部 誠（太田フレ）	松平 康子（尾瀬）	戸松 久実（沼田女子）	坂本 将（館林女子）
斎藤真里奈（渋川女子）	井上 春美（藤岡中央）	角田 幸枝（安中総合）	富岡 恵美（安中総合）
藤川あさみ（万場）	五十嵐桃子（長野原）	大和美由希（西邑楽）	西田えりか（赤城特支）
田中ちひろ（高高特）	境野 良香（二葉高特）	勝山 英城（二葉高特）	柳田絵美子（館林高特）
須田 玲子（渡良瀬特支）	江原 美帆（高経大附）		

文責：坂本 将（館林女子）

## 芸術科（音楽）「音楽Ⅰ」学習指導案

日 時：令和3年7月14日（水） 第5校時

対 象：音楽選択者1年3組 22名

授業者：群馬県立安中総合学園高等学校

教諭 富岡 恵美

場 所：多目的室

### 1 題材

#### (1) 題材名

「さくらさくら」を三味線で奏でて味わおう～引き継がれる日本の伝統音楽～

#### (2) 教材

- ・「練習曲1」「練習曲2」「練習曲3」「さくらさくら」  
（『音楽教員のための実践長唄入門』より 文化庁伝統音楽普及促進支援事業教材作成事業）
- ・オペラ「蝶々夫人」（映像資料）

#### (3) 本題材で扱う学習指導要領の内容

##### 音楽Ⅰ A表現（2）器楽

- ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫すること。
- イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。
  - (イ) 曲想と楽器の音色や奏法との関わり
- ウ 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。
  - (ア) 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能

##### 音楽Ⅰ B鑑賞（1）鑑賞

- ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聞くこと。
  - (ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠
  - (イ) 自分や社会にとっての音楽の意味や価値
- イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。
  - (ア) 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり
  - (イ) 我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴

##### [共通事項]（1）

本題材において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「音色，速度，リズム」

#### (4) 題材の目標

- ア 「さくらさくら」の曲想と楽器の音色や奏法，表現上の効果と音楽の構造との関わり，及び我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解するとともに，創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な曲にふさわしい奏法，身体の使い方などの技能を身に付ける。
- イ 三味線固有の音色や，「さくらさくら」における音色や速度，リズムを知覚し，それらの働きを感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，どのように演奏するかについて表現意図を

もつとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠、及び自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴く。

ウ 三味線固有の音色や、「さくらさくら」における音色や速度、リズムに関心を持ち、主体的・協働的に器楽や鑑賞の学習活動に取り組むとともに、日本の伝統音楽に対する感性を豊かにし、音楽を愛好する心情を養う。

## 2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知① 「さくらさくら」の曲想と楽器の音色や奏法との関わりについて理解している。(器楽) 技 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。(器楽)	思① 三味線固有の音色を知覚し、その働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。(器楽) 思② 「さくらさくら」の音色や速度、リズムを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠、及び自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。(鑑賞)	態 三味線固有の音色や「さくらさくら」における音色や速度、リズムに関心を持ち、主体的・協働的に器楽や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(器楽・鑑賞)
知② 「さくらさくら」の曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解している。(鑑賞)		

## 3 題材の考察

### (1) 題材設定の理由

学校教育における「我が国の伝統音楽」の取扱いは、平成元年告示の高等学校学習指導要領で示されて以来、30年に渡って充実が図られてきた。その中で、我が国の伝統音楽の楽器の取扱いを見てみると、その実践の多くは、「A 表現」の「イ 器楽」及び「B 鑑賞」における「箏」を取り扱う学習が中心となっている現状があると感じている。箏を扱う学習では、音色と奏法との関係に着目して演奏したり、我が国の音階に基づく旋律の特徴を味わったりすることが容易で、生徒にとっては表現及び鑑賞のいずれにおいても音楽的な達成感を得やすいと考える。

一方、我が国の伝統音楽を学び、それを自国のアイデンティティとして捉えるためには、「必ずしも多くの種類の音楽を網羅的に扱うことを求めているわけではない(学習指導要領解説 p. 50)」ものの、箏以外にも様々な伝統的な楽器に触れ、考えを深めたり、広げたりすることも重要であると考え。そのため、本題材では、箏と比べて扱われる機会こそ少ないが、同じ撥弦楽器である三味線を扱い、「器楽」及び「鑑賞」を関わらせて学習することで、三味線独自の音色が日本人の自然や風土などと密接に関わっていることを理解できるようにしたい。箏以外の日本の伝統的な楽器がもつ魅力に気づき、引き継ぐべき日本の音楽を普通教育における音楽を学ぶ最後の機会となる高等学校において学習することで、我が国のアイデンティティを誇りに思える人材を育てたい。

## (2) 生徒の実態

### ア 知識・技能

三味線そのものや「さくらさくら」の楽曲を知らない生徒はいないと思われるが、今までに三味線で「さくらさくら」を演奏したことのある生徒は全くいない。しかし、同じ弦楽器であるギターについては、これまでの学習で高い技能を持つ生徒も見受けられた。そのため、ギターの学習を想起させながら学習を進めることで、「さくらさくら」の曲想と楽器の音色や奏法、表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解するとともに、創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付けられるようにしたい。

### イ 思考・判断・表現

これまでの学習で、ギターの音色を知覚・感受し、楽曲の速度やリズムに着目しながら創意工夫をする生徒が多くみられた。そのため、三味線を扱う学習でも、楽器固有の音色や楽曲における音色や速度、リズムについて、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えられるようにするとともに、楽曲や演奏に対する評価とその根拠、及び自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴けるようにしたい。

### ウ 主体的に学習に取り組む態度

ギターの学習における班活動やアンサンブル活動の中で、生徒たちは、自らの考えを他者と交流したり、互いの気付きを共有し、感じ取ったことなどに共感したりしながら、個々の学びを深めることができていた。生徒が試行錯誤しながら、より良い演奏にするためにどうしたらいいのかを他者との関わりの中で行うことができるよう、演奏及び鑑賞の学習の中で班活動やアンサンブル活動を取り入れて主体性を育てていきたい。

## (3) 教材選択の理由

「さくらさくら」は私たち日本人にとって馴染みの深い音楽であり、日本の伝統楽器である箏などでも最初に取り組み楽曲の一つである。平成13年度に使用されていた小学校音楽の教科書には「さくらさくら」について以下のような解説が付けられている。

「さくらは、昔から親しまれてきた日本の代表てきな花です。この歌も、古くから人々の間で親しまれ、歌いつがれてきました。」

普段何気なく聞いたり演奏したりしている「さくらさくら」が我が国の自然や風土、そこで育まれた美意識などに根差しているということを理解することは、我が国の音楽の良さを再認識する上で重要なことであると考える。

また、「さくらさくら」は、プッチーニ作曲のオペラ「蝶々夫人」の中でも登場人物が日本を紹介する場面で形を変えて使用されている。日本人ではない作曲家も日本の象徴として取り上げた「さくらさくら」を教材として扱うことは、日本に暮らす生徒にとっても日本の音楽の魅力を改めて感じ、引き継ぐべき音楽として価値を見出すことができると考え、選択した。

## (4) 題材の系統性

4月から6月までは歌唱では「校歌」、器楽ではギター「木星」、ギターアンサンブル「第3の男」に取り組んだ。ギターアンサンブルでは、Google社のClassroomを活用し、毎回の授業の最後に自分たちの班の演奏をストリーミングに投稿するという活動を取り入れた。生徒たちは自分たちの演奏を客観的に振り返ることができたり、毎回のアンサンブルの上達を感じることができたりしていた。

また、自分たちの班の演奏だけではなく、他の班の演奏の様子を見たり聴いたりすることができるため、音楽表現の創意工夫に大きく役立った。そのため、本題材においてもそれらの機能を活用しながら生徒の主体的な学びを促進したい。

#### 4 指導と評価の計画

次	時間	○学習のねらい ・主な学習内容	知・技	思	態
			【 】内は評価方法		
1次 器楽	三味線に親しみ、楽器の構え方や演奏方法などの基本的な奏法を理解して演奏する。				
	1	<p>○三味線に親しみ、構え方や勘所の押さえ方、撥の振り下ろし方、文化譜の読み方などの学習の基礎を学ぶ。</p> <p>・文化庁による伝統音楽普及促進支援事業「すぐに役立つ！音楽教員のための実践長唄入門」のDVDを参考にしながら、三味線の構え方や勘所の押さえ方、撥の振り下ろし方などを動画で見ながら確認する。</p> <p>・三味線に多く触れながら調子の種類を理解する。</p>			
	2	<p>○三味線の音色を意識しながら演奏する。</p> <p>・基礎的な技能を生かし、練習曲に取り組む。</p> <p>・三味線の音色を意識しながら「さくらさくら」を演奏する。</p>	知① 【WS】		
	3	<p>○三味線の音色や奏法との関わりを理解して演奏する。</p> <p>・三味線の音色の特徴でもある「サワリ」について、楽器の仕組みについて学習したり、音色について感じ取ったりして、音色について知覚したことと感受したこととの関わりを学びながら音楽表現の豊かさや美しさを感じ取りながら演奏する。</p> <p>・三味線が日本の自然や風土、そこで育まれた美意識などと密接に関わっていることを捉える。</p>		思① 【WS】	
4	<p>○桜のイメージを膨らませ、そのイメージに合った「さくらさくら」の演奏をする。</p> <p>・桜のイメージ、またその桜の情景を膨らませて、そのイメージと音楽を形づくっている要素との関わりを生かして演奏する。</p>	技 【演奏】			
2次 鑑賞	様々な「さくらさくら」の楽曲としての魅力を味わい、我が国の音楽の魅力を再認識する。				
	5	<p>○生徒それぞれが表現した「さくらさくら」の魅力を味わい、オペラ「蝶々夫人」においてもこの楽曲を使用していることを学習することで、引き（弾き）継いでいきたい日本の伝統音楽をよさや美しさを味わう。</p>			

		<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が表現した「さくらさくら」の演奏を聴き、演奏に対して根拠をもって音楽のよさや美しさを味わって聴いたり批評したりする。</li> <li>オペラ「蝶々夫人」の中で「さくらさくら」のテーマが日本を象徴する場面として使用されていることから、引き（弾き）継がれる日本の伝統音楽の理由について考える。</li> </ul>		思② 【WS】	
3次	演奏や鑑賞をとおして、日本の伝統音楽を引き継ぐ意味について考える。				
器楽・鑑賞	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○三味線による「さくらさくら」の魅力に迫る。</li> <li>・箏やギター、ピアノによる「さくらさくら」と三味線による「さくらさくら」の演奏を聴き比べ、異なる楽器による表現の効果について比較して味わいながら演奏する。</li> </ul>	知② 【WS】 技 【演奏】		態 【WS】 【観察】

## 5 本時の学習

### (1) 目標

「さくらさくら」の音色や速度、リズムを知覚し、それらの働きを感受しながら、自分にとっての音楽の意味や魅力を考え、引き継いでいきたい日本の伝統音楽としてのよさや美しさを味わう。(第5時間/全6時間)

### (2) 使用教材・機械

オペラ「蝶々夫人」のDVD、ワークシート、クロームブック

### (3) 展開

	○学習のねらい ・主な学習活動	◇支援及び指導上の留意点 ■評価規準と【評価方法】
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の復習をし、「さくらさくら」の特徴を確認する。</li> <li>・自分の表現したい「さくらさくら」についてイメージをもって演奏し、本時の課題を確認する。</li> </ul>	◇表現したい桜のイメージと音楽を形づくっている要素とを関連付けながら演奏するように言葉がけをする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">           問：あなたが引き（弾き）継いでいきたい日本の伝統音楽「さくらさくら」の魅力とは？         </div>		
展開 ① 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「さくらさくら」の演奏の特徴を捉える。</li> <li>・それぞれの生徒が前時までに表現方法を工夫して演奏した「さくらさくら」を全体で聴き、音楽を形づくっている要素と曲想との関わりを捉える。</li> <li>・全体で聴取した後、自分のお気に入りの「さくらさくら」の演奏とその理由をワークシートに</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇特に表現の工夫が顕著であった生徒の演奏を選んでおき、提示できるようにする。</li> <li>◇クロームブックに掲載した演奏は、イヤホン等を使用して聴いても良いことを伝え</li> </ul>

	<p>まとめ、全体で共有する。</p>	<p>る。</p> <p>◇評価した根拠について、曲想と音楽の構造との関わりや、演奏を聴いて感じ取った自己のイメージ、感情など関わらせながら明確に示すことができるようにする。</p>
<p>展 開 ②  20 分</p>	<p>○オペラ「蝶々夫人」のDVDを鑑賞し、「さくらさくら」の楽曲の魅力に気付き、本時の間に対する自分なりの答えを探究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・蝶々さんが嫁入り道具の小物を夫に披露する場面を鑑賞し、日本を象徴する場面における「さくらさくら」の演奏の特徴を味わう。</li> <li>・これまで演奏してきた「さくらさくら」との共通点や相違点、特徴的な音色や速度、リズムをワークシートに記入する。</li> <li>・プッチーニにとっての「さくらさくら」の魅力を考え、楽曲の特徴の理解を深めて鑑賞する。</li> </ul>	<p>◇DVDは音のみを鑑賞し、音色や速度、リズムに注目して鑑賞できるようにする。</p> <p>◇「外国人から見た桜はどんなイメージか」、「桜の良さや味わいはどういったものか」などを発問し、桜が日本の自然や風土、そこで育まれた美意識などと密接に関わっていることを、考える際の手がかりとして示す。</p> <p>■思②【ワークシート】</p>
<p>ま と め  5 分</p>	<p>○自身にとっての「さくらさくら」の魅力を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分だったら「さくらさくら」のどんな魅力を伝えようと思うかについて、ワークシートにまとめる。</li> </ul>	<p>◇プッチーニはオペラの中で日本を象徴する場面において「さくらさくら」を使用したことを理解した上で、問に対する自分の答えについて主体的な意識をもって考えることができるようにする。</p> <p>■態【観察, ワークシート】</p>

あなたが引き（弾き）継いでいきたい

日本の伝統音楽「さくらさくら」の魅力とは？

番号

名前

■私のお気に入りの「さくらさくら」は、 \_\_\_\_\_ の演奏したものです。

理由は

音色が、	で、
速度が、	で、
リズムが、	で、
が、	
桜の	な様子表現していると思ったからです。

■オペラ『蝶々夫人』を鑑賞して、楽曲の特徴を捉えよう！

共通点	相違点

■なぜプッチーニは日本を象徴する場面においてこの「楽曲」を使用したのだろう？プッチーニが外国の人に引き継いでいこうとしたこの「楽曲」の魅力を探り、味わおう！

音色	速度	リズム
プッチーニにとっての「楽曲」の魅力とは？		

わたしが未来の日本人に引き継いでいきたい「さくらさくら」の魅力とは？

わたしが未来の日本人に弾き継いでいきたい「さくらさくら」の魅力とは？

Jamboard による班別協議資料

第1班：鈴木（桐生清桜）、須田（吉井）、木部（太田フレ）、柳田（館高特支）、戸松（沼田女子）

<p>本時における学習内容は、「指導事項」とどのように関連するか</p>	<p>「さくらさくら」という曲を、様々な夫人などのオペラも関わらせて学習することで、その音楽の社会的な意味を考えられていた</p>	<p>本時の学習目標を達成することで、どんな「育成を目指す資質・能力」が身に付くか</p>	<p>「さくらさくら」を鑑賞するとき、音楽を形づくっている要素を知覚・感受し、よさや美しさを味わいながら、適した言葉で表現する表現力</p>	<p>本時の展開で、「主体的・対話的で深い学び」となっていた場面はどこか</p>	<p>先生と生徒のコミュニケーションも活発だった</p>	<p>オペラの中でさくらさくらが使用されている場面を探るところでは、積極的に教え合う様子が見られた</p>
<p>「さくらさくら」を様々な角度から眺めることは、アの（ア）としっかりと関連付けられていたのではないかと感じます。また、イメージを書く場面はアの（イ）と関連していたかと思えます</p>	<p>演奏の特徴を記録・発言する際に音楽を形づくっている要素にふれながら、意見が書けていたところは、共通事項（1）</p>	<p>様々な場面で「音楽を形づくっている要素」をポイントを絞って聊こうとしていたと思うので、思考力等は身についたのではないかと感じます</p>	<p>友達の見え方を改めて自分の意見と比較したりしているところも深い学びになっていると感じました</p>	<p>プロの演奏ではなく、AさんBさんというクラスの仲間と演奏を聴くことにより興味関心がわいて、主体的な学びに結びついていると思いました</p>	<p>プリントに記入した後、隣の生徒と交換していたところは、他の生徒の意見を知るのに良い方法だと思う。大勢の生徒に意見を言うのが恥ずかしかったりする生徒には良いと思う</p>	<p>最後の「さくらさくら」の魅力とは？で、今までの知識や考え+他者の考えを参考にし、自分の考えを再構築できており、深い学びになっていると感じました</p>
<p>自分のお気に入りの「さくらさくら」の演奏とその理由=曲や演奏に対する評価とその感想</p>	<p>身近な「さくら」とブッチー二の音楽を関連付けて指導されていたので、オペラにも興味を持つ生徒がいるかもしれないと思った</p>	<p>最後のさくらさくらの魅力について述べる場面で、日本人に古くから愛されてきた日本の象徴としての桜とさくらさくらについて考えるなど、楽曲の背景について考えながら考えられていた</p>	<p>「さくらさくら」の魅力について、どんな考えを書いているのを知りたい</p>	<p>WSの課題に取り組んでいる場面は、各自が自分自身の中にある音楽や社会経験と照らし合わせながら、感受したものを言葉で表現していたので主体的な学びになっていると感じました</p>	<p>生徒同士が意見交換をする場面が多く、自己の考えを広げ深めていた</p>	
<p>三味線の音色とブッチー二の音楽と、比べながら聴くことで、音色や速度、リズムなど、形づくっている要素の比較ができる</p>						

第2班：井上（藤岡中央）、松平（尾瀬）、近野（伊清明）、天川（高崎女子）、勝山（二高特）

<p>本時における学習内容は、「指導事項」とどのように関連するか</p>	<p>本時の学習目標を達成することで、どんな「育成を目指す資質・能力」が身に付くか</p>	<p>本時の展開で、「主体的・対話的で深い学び」となっていた場面はどこか</p>			
<p>自分のイメージする「さくら」を演奏したこと→自己のイメージを持って臨場表現を工夫する</p>	<p>三味線の演奏aとbに対する評価をしたり、その板敷を生徒が発言したりワークシートに書いたりできていた</p>	<p>さくらや三味線から、ブッチー二、世界からみた日本の音楽と、スケールが大きくなっていった</p>	<p>様々な演奏、好み、感受があることを尊重、認め合う態度</p>	<p>WSの記入後、他の生徒と意見交換が自然に行われていた</p>	<p>前時で自分のイメージする「さくら」を演奏する</p>
<p>ブッチー二の鑑賞の際、音楽の要素と結びつけて鑑賞活動に取り組んでいた</p>	<p>音楽の諸要素だけではなく、知識に関わらせながら、5音階などにも触られるとよかったのでは</p>	<p>ブッチー二のオペラを鑑賞することにより、我が国及び海外の音楽を尊重する態度が養われる</p>	<p>鑑賞したものと結びつけ音楽の意味や価値を考える力</p>	<p>生徒同士が座席に座ったまま意見をシェアすることが自然に行えていた</p>	<p>生徒の意見を先生が全体に伝えて共有していた</p>
<p>生徒がそれぞれイメージを持ち、演奏を工夫できるよう、段階的に支援されてきていた</p>					

第3班：大和（西邑楽）、五十嵐（長野原）、角田（安中総合）、木村（榛名）、境野（二高特支）

本時における学習内容は、「演奏事項」とどのように関連するか

本時の学習目標を達成することで、どんな「育成を目指す資質・能力」が身に付くか

本時の展開で、「主体的・対話的で深い学び」となっていた場面はどこか

生徒2人の演奏のどちらがお気に入りかを、要素について考えながら選んでいた

音楽と生活及び社会などとの関連から音楽を捉えたり

自分なりの「さくらさくら」を弾くことで、

我が国及び諸外国の音楽文化を尊重する態度

2名の生徒の演奏を聞いたところで、どんなさくらを弾いているのかな、と考えながら聞いていた

友達の見解を参考にしながら、考えを深めていた

様々な夫人の音楽でどこに知っている曲があるかな、とよく聴いていた

→曲や演奏に対する評価とその根拠

音や音楽のよさや美しさなどの価値のあるものとして感じ取る感性

生徒の記入内容をうまく引き出していた

ワークシートがわかりやすく、根拠（要素）を考えやすかった

自分や社会にとっての価値を考えたりし、よさや美しさを味わい、音楽の意味や価値を創造すること

CDを聴くときに、適切な間をはさみながら、何回も繰り返し聴いており、3回目などは「よく聴こう」という姿勢につながっていた

時間の関係もあったが、生徒の意見をもっと多く取り上げられたい、深めたいと思うよりよかった

生徒が考える時間がたくさんとられていた

第4班：川上（伊勢崎）、斎藤（渋女）、須田（渡良瀬特支）、藤川（万場）、江原（高経大附）

本時における学習内容は、「演奏事項」とどのように関連するか

本時の学習目標を達成することで、どんな「育成を目指す資質・能力」が身に付くか

本時の展開で、「主体的・対話的で深い学び」となっていた場面はどこか

授業の3軸点はよかったが、終着点が少し明確でなかった？

自分にとっての音楽を、さくらさくらを選んできて表現することで、生涯を通して音楽を愛好する力につながるといふ伝えたい気持ち伝わってきた

ワークシートを用いることで、自分の力で取り組むことができていた点よかった。自分自身の発言を整理することができていた。教諭の発言で生徒同士の対話が広がっていた

主体的に取り組む観点で、繰り返し演奏を聴くことによって主体的に取り組めていた。3回はちょうど良かったと思う。

速さが順番に飛んで知識・感受しやすい結果になった

どんな風にブッチー二が捉えた魅力を伝えたかったのか？きれいに授業が繋がっていた分、明確に提示してもよかったのでは？

すべての活動が次の活動につながっていた。（演奏の続き比べや実際の演奏）ブッチー二の鑑賞において、様々な夫人のストーリーは生徒に伝わるようにポイントを絞ってきちんと説明があっても良かったのでは

富岡先生への質問：①グループ「リズムはどのよつな終着点を考えていたか？」②「ブッチー二の鑑賞について？」③「ワークシートの最後【未来につなげる】ところで、生徒にどのように書いてほしいか？」

まとめ：自分の中での価値観を新たに発見する授業だった。確信をだしたのは、生徒にとって身近に感じ取る視点が多かった。

共感のある声掛けが行われていた点が多かった。ブッチー二の動き＝壁の象徴が伝わるとよかったかなと

よくねられた授業で生徒がよく取り組んでいた授業だった。生徒に考えさせる授業に重点を置いていることがよくあった。